

平成 29 年 10 月 26 日
経済学研究科一般教授会資料

令和 2 年 10 月 1 日
経済学研究科委員会資料
令和 2 年 10 月 22 日
経済学研究科一般教授会資料

令和 3 年 6 月 17 日
経済学研究科委員会資料
令和 3 年 6 月 24 日
経済学研究科一般教授会資料

経済学研究科博士前期課程

研究指導教員の決定方法並びに研究指導計画書及び研究指導報告書の作成について

■研究指導教員の決定方法

1. 研究指導教員の役割

- (1) 研究指導教員は、学生の希望する研究課題、指導教員の専門分野、指導環境等を考慮し、学生の同意を得た上で研究課題を決定し、研究指導を行う。
- (2) 研究指導教員は、研究指導に加え、学生の教育・研究に必要となる授業科目の履修について指導を行う。
- (3) 研究指導教員は、学生ごとに1名とする。

2. 経済学専攻における研究指導教員の決定プロセス

- (1) 1年次前期
 - (ア) 経済学専攻1年次生全員に共通する研究指導教員を決定し、配置する。この1年次前期の共通研究指導教員はガイダンス・ファシリテーター（guidance facilitator, GF）と称される。
 - (イ) GFは、教授会による研究指導体制の検討を踏まえ、経済学専攻教員の合議により、対象となる学生の入学前に決定、選出されている。
 - (ウ) GFは、入学時オリエンテーションにおいて、その制度と役割、1年次後期以降の研究指導教員決定方法等を学生に説明する。
- (2) 1年次後期以降
 - (ア) 1年次前期終了時に、学生は、研究計画書及び研究指導教員希望届を作成し、GFに提出する。学生は、研究指導教員希望届において何位までの希望教員名を記載しうるのかについて、提出年度の研究指導体制、学生人数等を鑑みて指示される。
 - (イ) GFは、提出された研究計画書及び指導教員希望届、1年次前期の成績に基づき、8月下旬をめどとして、1年次後期以降の研究指導教員配属案を作成する。
 - (ウ) GFは、作成した研究指導教員配属案を電子メール等により速やかに経済学専攻教員に通知する。この際、提示された研究指導教員配属案に異議のある教員は、研究指導教員配属代替案を作成し、経済学専攻教員会議に提示する。

- (エ) 8月末に開催される経済学専攻教員会議において、GF作成の研究指導教員配属案、またこれに異議の出た場合には合わせて研究指導教員配属代替案が審議され、研究指導教員配属案が決定される。
- (オ) 経済学専攻教員会議において決定した研究指導教員配属案は、事務局を通じて、9月の経済学研究科委員会における協議を経て、9月の教授会において諮られる。
- (カ) 教授会で確定した研究指導教員名は、学生に速やかに通知される。

3. 経営学専攻における研究指導教員の決定プロセス

(1) 選抜試験出願時

- (ア) 一般選抜及び外国人留学生特別選抜の場合、入学志願者は、募集要項に記載されている教員の研究内容等を参考にして、志望分野及び志望小分野を記載する。
- (イ) 社会人特別選抜の場合、入学志願者は、募集要項に記載されている教員の研究内容等を参考にして、志望プログラムを記載の上、指導希望教員を希望により記載する。

(2) 入学試験合格者発表後

- (ア) 研究指導教員は、選抜試験の種類にかかわらず、選抜試験出願時に提出された志望理由書、研究計画書等に基づき、学生が入学するより前の教授会において決定される。
- (イ) 決定された研究指導教員名の学生に対する通知は、4月の入学時オリエンテーションにおいて行われる。

■研究指導計画書及び研究指導報告書の作成

1. 経済学専攻における研究指導計画書の作成

(1) コア科目の重点的学習（1年次前期）

- (ア) 学生は、大学院レベルでの経済学の基礎的な科目の学習を通して研究のための手法の基本を習得した上で、自らの研究計画を立案する。
- (イ) 経済学専攻教員は、学生が研究計画を立案するに当たって参考になるよう、それぞれの専門分野の紹介を行う。

(2) 研究テーマの設定、研究の開始（1年次後期～2年次前期）

- (ア) 学生は、研究テーマを設定し、その研究計画を立案する。
- (イ) 研究指導教員は、学生が研究計画を立案するにあたり指導を行う。
- (ウ) 学生は、立案した研究計画に従って研究を開始する。
- (エ) 学生は、分野に応じた研究を進める上での留意点や論文の書き方などを学びつつ、それぞれの研究課題に応じて、文献や資料の収集閲覧、先行研究や重要資料の整理と読解、予備的な調査や実験等に取り組む。
- (オ) 学生は、研究指導計画書に研究計画を記載して指定の期日（1年次後期2月～2年次前期5月）までに研究指導教員に提出する。
- (カ) 研究指導教員は、学生から提出された研究計画に対し研究指導計画を加筆し、学生に明示する。
- (キ) 研究指導教員は、研究指導計画書を経済学研究科教授会に報告し、承認を得る。
- (ク) 研究指導計画書は教育推進課に提出する。

(3) 研究の遂行（1年次後期～2年次12月）

- (ア) 学生は、立案した研究計画に従って研究を遂行する。
- (イ) 学生は、1年次においては、それぞれの研究課題に応じて、主に研究方法の確立、調査、実験等に取り組む。
- (ウ) 学生は、2年次においては、決定した研究方法に基づいて研究課題に取り組み、理論的考察、データ収集・解析等を行い、研究結果をまとめる。
- (エ) 研究指導教員は、学生の研究の進行を確認しつつ、理論的考察、調査・実験の手法の指導やデータ解析の指導等を行い、研究結果をまとめさせる。

(4) 研究の中間発表（2年次11月～12月）

- (ア) 学生は、研究経過を演習科目において発表し、得られた意見等を11月から12月の修士論文発表会までに研究に反映させる。
- (イ) 学生は、研究経過を修士論文発表会において発表し、研究内容の改善を図る。この修士論文発表会は公開される。

(5) 修士論文の作成（2年次12月～1月）

- (ア) 学生は中間発表までの研究成果、及びそれ以降の分析、考察をもとに修士論文の作成を開始し、研究指導教員のもとで修士論文をまとめる。
- (イ) 研究指導教員は、修士論文の構成や図表の作成、文献の整理・引用等、論文のまとめ方を指導する。

(6) 修士論文の提出（2年次1月中旬～下旬）

- (ア) 学生は、修士論文を1月の指定された期日までに提出する。

2. 経済学専攻における研究指導報告書の作成

(1) 研究指導報告

- (ア) 研究指導計画書に基づき指導を進めた場合には、その旨を記載する。
- (イ) 研究指導計画書から異なった指導、追加的な指導を行った場合には、その旨及びその内容を記載する。
- (ウ) 研究指導教員は、研究指導報告書を修士論文審査の記録とともに教育推進課に提出する。

(2) 研究業績等

学会発表、投稿論文、受賞、その他の特記事項があれば記載する。

3. 経営学専攻における研究指導計画書の作成

(1) コア科目の重点的学習（1年次）

- (ア) 学生は、研究指導教員による授業科目の履修についての指導を受け、研究に必要となる授業科目を履修する。
- (イ) 学生は、当該科目の履修を通じて、所属する分野における研究のレビュー、調査研究の方法、データベースの取扱い方等を学ぶ。
- (ウ) 研究指導教員による演習科目を通じて、具体的な研究テーマの選択、研究計画の立案を準備する。
- (エ) 論文演習における2年次生による研究発表を聴き、より広い知見をもって自己の研究計画立案の参考とする。

(2) 研究テーマの設定、研究の開始（1年次後期～2年次前期）

- (ア) 学生は、研究テーマを設定し、その研究計画を立案する。
- (イ) 研究指導教員は、学生が研究計画を立案するにあたり指導を行う。
- (ウ) 学生は、立案した研究計画に従って研究を開始する。
- (エ) 学生は、分野に応じた研究を進める上での留意点や論文の書き方などを学びつつ、それぞれの研究課題に応じて、文献や資料の収集閲覧、先行研究や重要資料の整理と読解、予備的な調査や実験等に取り組む。
- (オ) 学生は、研究指導計画書に研究計画を記載して指定の期日（1年次後期2月～2年次前期5月）までに研究指導教員に提出する。
- (カ) 研究指導教員は、学生が提出した研究指導計画書に研究指導計画を記載し、学生に明示する。
- (キ) 研究指導教員は、研究指導計画書を経済学研究科教授会に報告し、承認を得る。
- (ク) 研究指導計画書は教育推進課に提出する。

(3) 研究の遂行（2年次）

- (ア) 学生は、決定した研究方法に基づいて研究課題に取り組み、理論的考察、データ収集・解析等を行い、研究結果をまとめる。
- (イ) 研究指導教員は、学生の研究の進行を確認しつつ、理論的考察、調査・実験の手法の指導やデータ解析の指導等を行い、研究結果をまとめさせる。

(4) 研究の中間発表（2年次10月～12月）

- (ア) 学生は、研究経過を演習科目において発表し、得られた意見等を10月から12月の修士論文発表会までに研究に反映させる。
- (イ) 学生は、研究経過を修士論文発表会において発表し、研究内容の改善を図る。この修士論文発表会は公開される。

(5) 修士論文の作成（2年次12月～1月）

- (ア) 学生は中間発表までの研究成果、及びそれ以降の分析、考察をもとに修士論文の作成を開始し、研究指導教員のもとで修士論文をまとめる。
- (イ) 研究指導教員は、修士論文の構成や図表の作成、文献の整理・引用等、論文のまとめ方を指導する。

(6) 修士論文の提出（2年次1月中旬～下旬）

学生は、修士論文を1月の指定された期日までに提出する。

4. 経営学専攻における研究指導報告書の作成

(1) 研究指導報告

- (ア) 研究指導計画書に基づき指導を進めた場合には、その旨を記載する。
- (イ) 研究指導計画書から異なった指導、追加的な指導を行った場合には、その旨及びその内容を記載する。
- (ウ) 研究指導教員は研究指導報告書を修士論文審査の記録とともに教育推進課に提出する。

(2) 研究業績等

学会発表、投稿論文、受賞、その他の特記事項があれば記載する。

以上

令和 年 月 日作成
 年 月 日修正
 年 月 日修正

学籍番号		フ リ ガ ナ 学生氏名	
専攻・分野名		入学年度	年度
		課程 年次	博士前期・博士後期 年次
研究題目			
主任指導教員名			

○研究計画 (学生記入欄) : (研究計画・方法、学会発表、論文作成等の計画を記載)

記入例

1年次 4月～7月：研究計画の立案

指導教員と相談し、決定した研究課題に関して先行研究を整理し研究計画を立案する。

1年次 7月～2年次 1月：研究の遂行

研究計画に従って研究を遂行する。

1年次では、主に予備的な実験や調査を行い研究方法の確立を図る。

2年次では、確立した研究方法によりデータ収集・解析等を進め、その成果を修士論文としてまとめる。

2年次 9月：研究成果の中間発表

ここまでの成果と今後の予定について、専攻内の発表会で報告する。

2年次 10月～1月：修士論文の作成

これまでの研究成果をもとに修士論文の作成を開始し、指導教員のもとで修士論文をまとめる。

2年次 1～2月：修士論文の提出・発表

修士論文を指定する期日までに提出し、公開の発表会で論文の内容を発表する。

研究室や個人のテーマなど、より詳細に、具体的に記載してください。

○研究指導計画 (指導教員記入欄)

記入例

1年次 4月～7月：研究計画の立案

学生と相談して決定した学生の研究課題・研究計画立案について、研究方法、文献の検索や読解方法等を指導する。

1年次 7月～2年次 1月：研究の遂行

学生が実施している研究の進行を随時確認し、実験・調査等の手法やデータ解析の指導等、研究の進捗状況に応じた指導を行う。

研究倫理委員会での審査を必要とする場合は、その手続きの指導を行う。

2年次 9月：研究成果の中間発表

専攻内の発表会に向けてプレゼンテーション方法等について指導する。

2年次 10月～1月：修士論文の作成

研究成果をもとに修士論文の構成や図表の作成、文献の整理・引用等、論文のまとめ方を指導する。

2年次 1～2月：修士論文の提出・発表

修士論文を提出できるよう指導し、発表会に向けてプレゼンテーション方法等について指導する。

研究室や個人のテーマなど、より詳細に、具体的に記載してください。

学籍番号		フリガナ 学生氏名	
専攻・分野名		入学年度	年度
		課程 年次	博士前期・博士後期 年次
研究題目			
主任指導教員名			
<p>○研究指導報告（研究指導計画書から異なった指導を行った場合はその内容を記載してください）</p> <p>記入例</p> <p>研究指導計画書に基づき指導を進めた。</p> <p>その中で2年次9月の研究成果の中間発表において「〇〇」について不足していると研究グループ内で指摘を受け、該当部分について予備的な実験を行うように指示した。</p> <p>また、論文作成時に△△の解析について知識が不足していることが判明したので、書籍を紹介した。</p>			
○研究業績等	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 学会発表・投稿論文・受賞等や特記事項があれば記載してください。 </div>		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 研究指導計画書から変更がない場合は、研究指導計画書の通り指導を行った、旨をご記載ください。 </div>		